

筑波研究学園都市における「研究学園地区建設計画」 及び「周辺開発地区整備計画」の改定の骨子

計画改定の背景

- 科学技術基本計画（平成8年7月）における本都市の研究交流拠点としての位置づけ
- 常磐新線とその沿線開発、首都圏中央連絡自動車道の整備の具体化

将来人口フレーム

研究学園地区	10万人
周辺開発地区	25万人
計	35万人

前計画 研学10 + 周辺12 = 22万人
 現在 研学6.4 + 周辺12.3 = 18.7万人



都市整備の基本目標

1. 科学技術中枢拠点都市・・・独創的・先端的な研究を生み出すとともに、科学技術集積を活かした新産業創出の拠点、サイエンス型国際コンベンション都市
2. 広域自立都市圏中核都市・・・広域的、自立的な都市圏の中核都市として、都心機能の充実・強化等により高次都市機能の集積と都市内の高い利便性を実現
3. エコ・ライフ・モデル都市・・・21世紀の住文化やライフスタイルを提案するモデル都市として、自然・田園と都市の調和、豊かな文化や多様な住民の交流等を実現



研究学園地区の主要施策

- 研究・教育機関等の集積と整備
 - ・研究内容に対応した施設・設備の計画的更新、高度化
 - ・「知的触発国際プラザ及びつくば国際会議場（仮称）」の整備
- 科学技術集積等を活かした都市の活性化の推進
 - ・ベンチャー育成支援等により先端的な研究開発成果の起業化促進
 - ・青少年等の科学技術理解増進への貢献
- 都市機能の充実
 - ・都心地区に商業、業務、宿泊、文化等の機能を集積
 - ・常磐新線導入に伴う駅前広場等の整備、短距離交通システムの導入検討等
- 良好な環境の確保と文化の形成等
 - ・環境共生型都市づくりの推進
 - ・科学技術と生活が調和した独自の文化、一体感のあるコミュニティ形成



周辺開発地区の主要施策

- 都市の一体的・総合的な整備
 - ・全体として均衡のとれた都市形成
 - ・研究学園地区都心地区と葛城地区の一体的な土地利用と連携による中枢拠点の形成
 - ・都市と農村の共生
- 広域交通体系の整備と計画的な市街地開発の推進
 - ・常磐新線や圏央道の整備を進めるとともに、それに伴う計画的な市街地開発を推進し、居住機能を主体に複合的な機能を持つまちづくりを進める
- 科学技術集積等を活かした産業の振興
 - ・先端技術産業や知識創造型産業の導入・育成等
- 都市化を活かした農業の振興と活性化
- 生活環境の整備と環境の保全
- 質の高い住環境と豊かな市民生活の創造

筑波研究学園都市主要プロジェクトマップ

